



国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所

海上技術安全研究所 国際会議報告



会 議：国際標準化機構（ISO）セキュリティ及びレジリエンス技術専門委員会（TC 292）
第7回総会とサプライチェーンセキュリティ作業委員会（WG 8）、バンコク会合

開催場所：タイ工業規格協会（TISI） タイ バンコク

会議期間：2019年9月9日～13日

WG 8 参加国：オブザーバーとリエゾンを含む12カ国16名

海技研からの出席者：横井 威：環境・動力系環境影響評価研究グループ主任研究員

概要：ISO/TC 292 は、社会の安全及びレジリエンスを強化することを目的とし、セキュリティ分野の標準化を審議する技術専門委員会である。これまで、ISO の戦略アドバイザーグループにより規格開発の体制が検討され、ISO/TMB（技術管理評議会）の承認を経て、ISO/TC 223（社会的セキュリティ）、ISO/TC 247（不正防止対策及び管理）、ISO/TC 284（民間警備会社オペレーションの品質管理 - ガイダンスを伴う要求事項）及び ISO/TC 8（船舶及び海洋技術）の一部を統合し、本委員会が設立された。

第7回目の今次会合では総会（小委員会）に加え、WG 1（用語定義）、WG 2（事業継続とレジリエンス）、WG 3（危機管理）、WG 4（製品及び文書類の真正性、完全性信頼性）、WG 5（コミュニティーレジリエンス）、WG 6（保護セキュリティ）と、新設された WG 7（イベント開催の指針）、WG 8（サプライチェーンセキュリティ）及びWG 9（クライスマネジメント）が同時に開催された。

主な貢献

横井は、総会の開催に先立ち、ISO 28000 の改訂に係る骨子案（Skeleton Document）の起草等に貢献した。また、エキスパートとして、本骨子案の審議を取り扱う作業部会として今時会合より新たに設置された WG 8 に参画し、審議に貢献した。

なお、今時会合への出張や審議対応は、経済産業省による ISO/TC 292 に係る調査研究を受託した一般財団法人日本規格協会からの依頼によるものである。



ISO/TC 292 にて

主な審議結果

当所職員が担当した議題の主な審議結果は以下のとおりである。他の事項及び審議結果の詳細については、他機関の報告を参照願いたい。



1 ロードマップの作成等

今時会合より、ISO 28000 の改訂を実施する作業部会として WG 8 が新設された。このため、本規格改定案の審議に先立ち、WG 8 としてのロードマップ、審議の範囲、事務局の選出及び本 WG の前身であったアドホックグループによる妥当性報告（Justification Report）の確認等を実施した。審議の結果は、以下のとおりである。

- 今時会合より本格的な改訂作業を開始し、2022 年に本規格の改訂版の公開を目指すこととなった。そのための WD（作業原案）に係るコメント募集は、2019 年 10 月中旬に実施することで合意した。
- WG 4、WG 6、SC 27 及び TC 8 へのリエゾンを決定し、事務局は Frank Herdmann 氏、広報担当は Rajeev Thykatt 氏が選出された。さらに、WG 8 の中間会合を 2020 年 2 月頃に開催することで合意した。

2 ISO 28000 改定案の審議

- ISO 28000 に係る改訂作業は、適応範囲は変更せずにマネジメントシステム規格（MSS）の共通構造（HLS）との整合性を確保することで同意した。
- 各エキスパートが、提示された改定骨子案に基づき修正意見を述べた。作業部会は特段の異論はなく、これに同意した。

3 ISO/TC 292 の決議

Head of Delegations 会合と WG 1～WG 9 の審議を経て、総会では 37 の決議を採択した。WG 8 に関係する主な決議は以下のとおりである。

決議第 207 号 WG 8（サプライチェーンセキュリティ）の事務局の任命
ドイツの Frank Herdmann 氏を事務局に任命する。

4 今後の予定

次回の ISO/TC 292 総会は、2020 年 6 月 21 日～26 日に、ドイツのベルリンで開催される予定である。